

013

編集長独白

015

表紙の時計／テルイ&サクラダ 黒石「RS-1」

017

Editors' Choice!

ラルフローレン サファリRL67 トウールビヨン／ジャケ・ドロー エクリプス／ガラスヒュッテ・オリジナル セネ
タ・パノラマ デイト・ムーンフェイズ／エルメス ドレサージュ クロノ／センチュリー エレガンス トウールビヨン／
シヨパール スーパーファスト パワーコントロール／ドウラクル リープS／ジャンリシャール 1681 コレクション
／ブライトリング トランスオーシャン・クロノグラフ GMT

028

世界は時計で回っている。

030

パテックフィリップ カラトラバ

032

ピアジェ エンペラドール・クッション・オートマティック・ミニッツリピーター

034

ブランパン ブイフティファゾムス バチスカーフ&ウーマン クロノグラフ グランドデイト

036

カルティエ タンク MC

038

ロジェ・デュブイ 「潜在能力を生かし、ベスト・クオリティの実現を目指して」

040

ジラール・ペルゴ 1966 ミニッツリピーター

043

ブルガリ 「ブルガリ・ブルガリ 象徴的モデルの進化」

049

ジャガー・ルクルト 180周年

高級複雑時計メーカーへの道

1833年の創業以来、スイス・ジュウ渓谷の村ル・サンティエにマニユファクチュールとして根付く
ジャガー・ルクルトは新工房創設、高級複雑時計コレクションの充実など、21世紀に入り、
大きな発展を遂げている。その現在の姿と主要コレクションを紹介する。

068 パネライ 自社開発ムーブメントの発展

2013年の新作シルミノール 1950 レガッタスリーデイズクロノフライバックチタニウム、シルミノール 1950 スリーデイズクロノフライバックオロロソとともに、2005年から今日までの自社開発ムーブメントを紹介。

076 シチズン プロマスター・エコドライブ・サテライト・ウエーブ・エア

標準電波時計からサテライト電波時計へ

080 エッセイ／ウエークアップは時計の歌だった ●文／時の研究家 織田 一朗

081 リシャール・ミル 秀逸にして唯一無二の追求

「リシャール・ミルはなぜ高いのか」。この疑問に答えるためにスイスのレ・ブルルにある工房を取材し、また、その独自性を4つの特徴から探る。さらにリシャール・ミルさんに彼が考える「時計づくり」について伺った。

098 時計ジャーナリスト 瀧澤 広の「マイ・チョイス」 第11回

コンプリケーション・ウォッチ

101 日本の独立時計師たち

107 ウォッチムーブメントハンドブック③① ●文／中村清尚

112 続・商館時計蒐集綺談③① ●文／大川 展功

116 腕時計新着情報

121 日本時計輸入協会理事、堀田峰明さんに聞く

122 インフォメーション

124 メーカー&ショップリスト

128 次号予告

【別冊付録】ヴァンクリーフ&アーペル「物語を綴るタイムピース」



ジャガー・ルクルト 180周年

高級複雑 時計メーカーへの道

1833年、アントワーヌ・ルクルトがスイス・ジュウ渓谷に工房を開いて180年の時が流れた。この間に1242種類以上のムーブメントを開発し、マニファクチュールとしての道を歩んできた。そして今日、いくつかの苦難を糧に、21世紀の高級メーカーとして発展を遂げ、また未来に向かうための努力が続けられている。

取材／香山知子（本誌編集部）
写真／宮本敏明（P 49、P 50、P 56、P 57、P 58、P 67）、ジャガー・ルクルト

リシャール・ミルはなぜ高いのか



「秀逸にして唯一無二」の追求

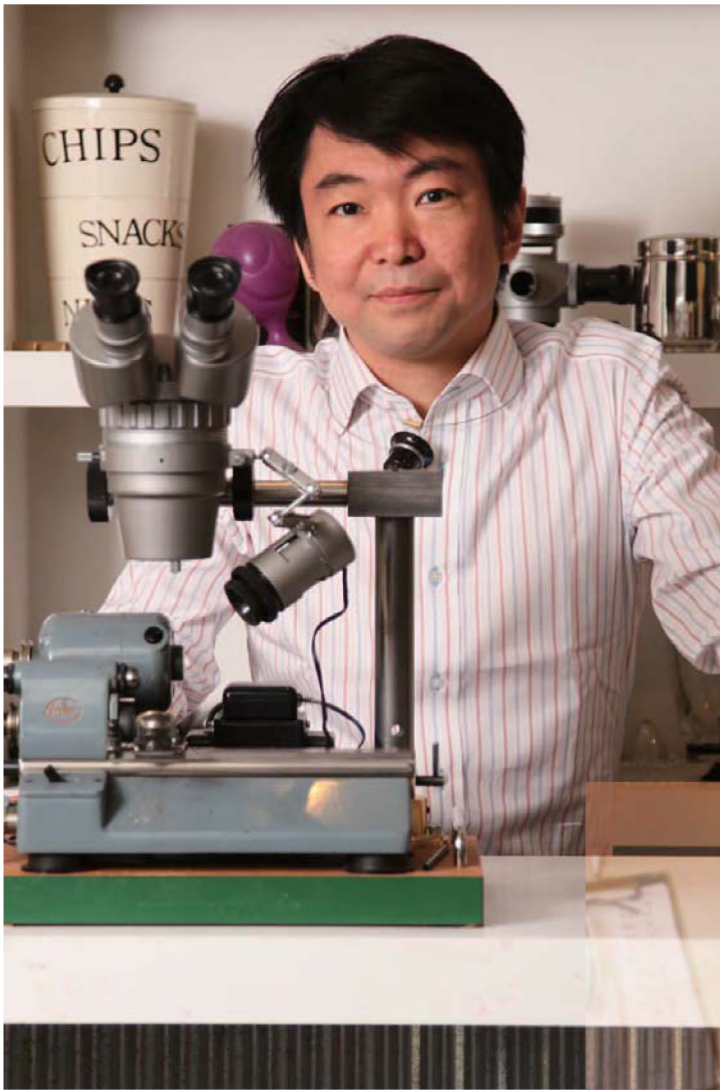
リシャール・ミルは毎年、次々と新しい機構を組み込んだ数多くの新作を発表し、またアスリートたちとのコラボレーションによる意表をついたモデルも話題となる。そして価格も注目を浴びる。華やかさに包まれたリシャール・ミルだが、その根底にあるものを探ってみたい。

取材・文／香山知子（本誌編集部） 写真／宮本敏明（P 81、P 82、P 83、P 84、P 85）、リシャールミルジャパン

日本の 独立時計師たち

2013年4月25日、恒例のバーゼルワールドが開幕。独立時計師たちのAHCーブースもひと際活況を帯びるなか、ふたりの日本人時計師の姿が見られた。ひとりとは3度目のバーゼルに臨む菊野昌宏さん。もうひとりとはAHCー候補として初参加が認められた浅岡肇さんである。

取材文 小野正章(本誌編集部) 写真 青木健格(WP撮影部)



AHCI CANDIDATE
HAJIME ASOKA

浅岡 肇

1964年生まれ。1990年に東京藝術大学デザイン科を卒業後、フリーの工業デザイナーとして活躍。92年に浅岡肇デザインを設立した後、独学で時計を研究。2009年に初のトゥールビヨンを完成させ、今年はAHC候補として初のバーゼル出展を果たす。

AHCI MEMBER
MASAHIRO KIKUNO

菊野昌宏

1983年生まれ。2008年にヒコ・みづのジュエリーカレッジ時計学校WOSTEPコースを卒業。2011年には不定時法腕時計の製造が認められ、AHC候補としてバーゼルワールドに初出展する。今年、期間中にAHCの正会員として認められた。

